

い ん で ん づ く り

陰殿造

「間」に合う建築

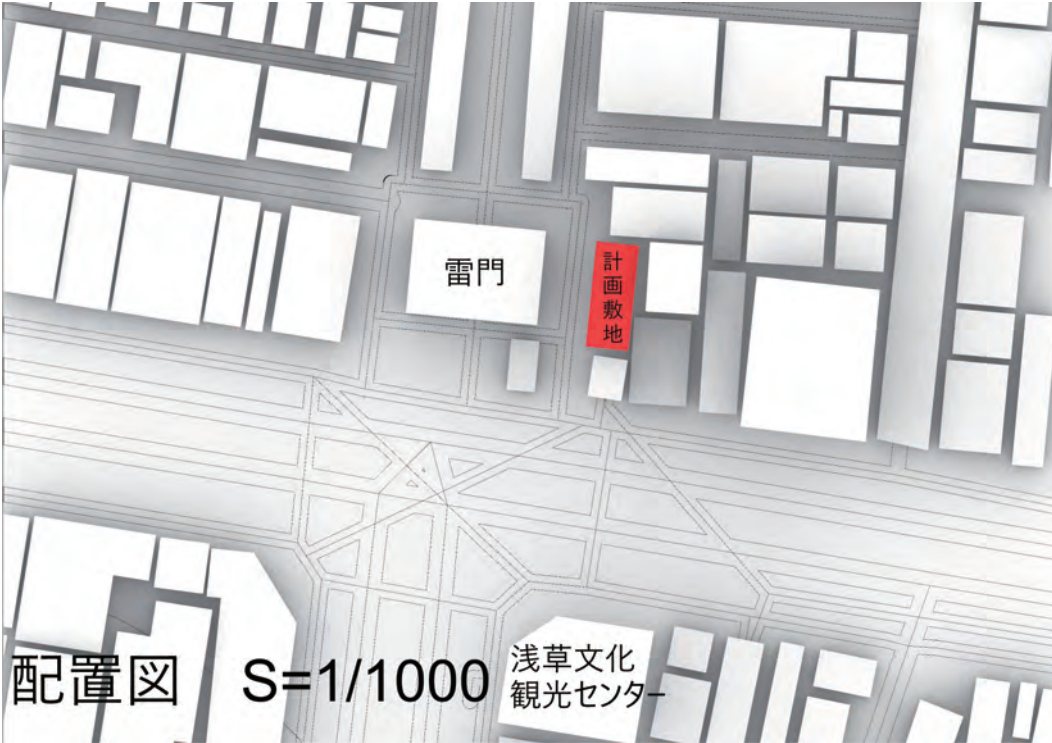
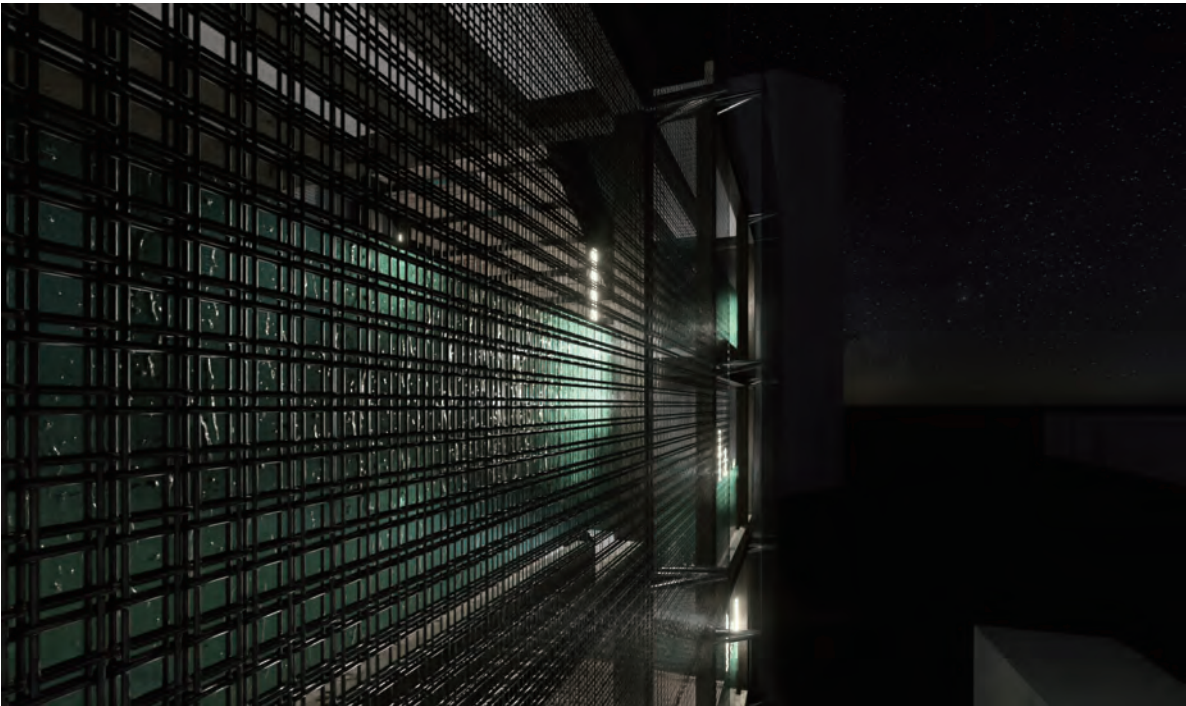
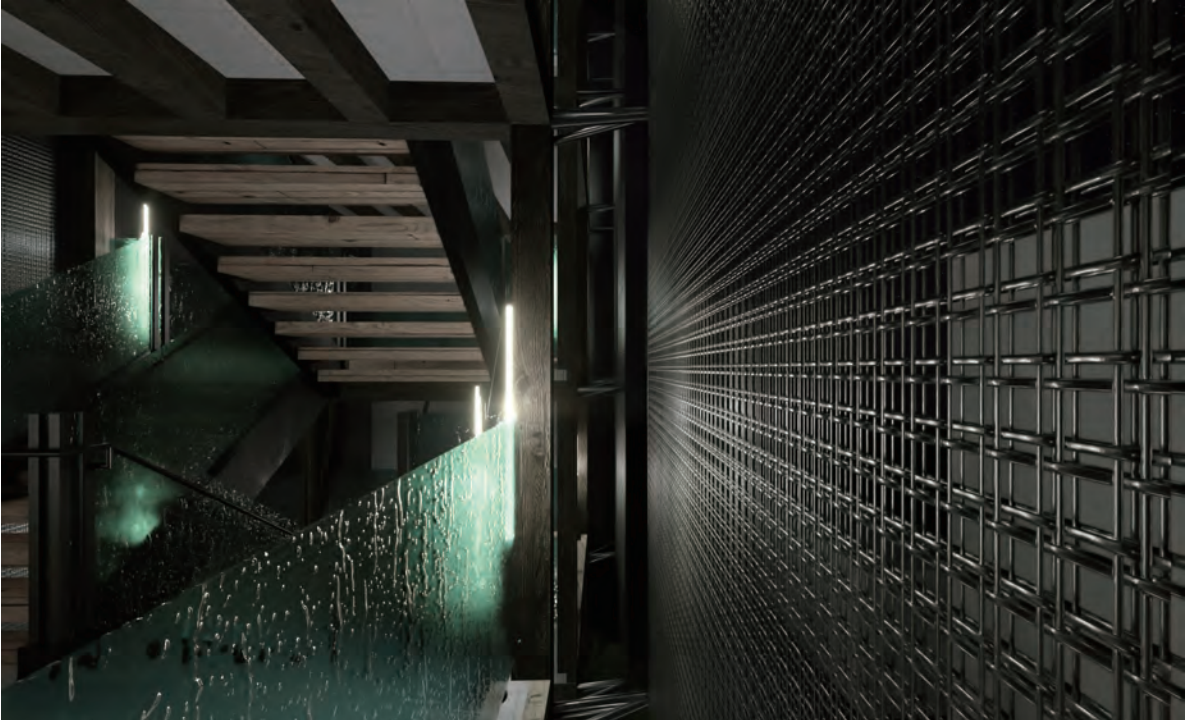
神社や寺などは改修の際には全体がネットにおおわれる。これももはや和の形態のひとつなのではないだろうか。これより着想を得て、神社や寺でない構造物に「間」という和の形式を、ネットを用いたファサードと居住空間に間を設けることで、なかば強制的に割り当てることで、和の要素を包含した「間」に合う建築を設計・計画。敷地設定の面から構築することとした。

敷地は雷門のすぐ隣。雷門の前は平日でも大勢の観光客で賑わっている一方、細い裏路地では人の影はない。人の密度の差異も「間」のひとつである。また、建物そのものにも大きな「間」を配置した。スラブとファサードとの間に「間」を設けることで空間を断絶・切り取る。「間」そのものが「間」に合うオブジェクトとして存在している。

設計

一空間と空間の「間」一

神社仏閣は改修の際に全体がネットにおおわれる。これももはや和の形態のひとつなのではないだろうか。これより着想を得て、神社や寺でない構造物に「間」という和の形式を、ネットファサードを用い、ファサードと居住空間に「間」を設けた。それによって、壁がなくとも内部と外部は空間的に断絶されるものの、メッシュのファサードを使用しているため視覚的には内部と外部は同一の空間となる。



敷地設定

一出発地と目的地の「間」一

敷地は浅草風雷神門のすぐ隣とした。西側には雷門、東側には飲食店やテナント・住宅が乱立している。つまり目的地である浅草寺と、出発地や浅草寺への道中にある経由地との間に位置しているわけである。また、ファサードをメッシュにすることによって、建物内からでも雷門を拝むことができる点も、目的地に臨む経由地と同様である。さらに、完全な壁ではなく透明感のあるファサードによって、不完全な状態もまた「間」である。

計画

一受動と能動の「間」一

この建築は、用途は特に決定しないフリースペースの提案である。しかし各フロアにはデスクや椅子・ベンチ、楽器などを配置することで、風景や夜景を眺めるなどの受動的な行動と、勉強や仕事、演奏などの能動的な行動が交互に計画された床の織りなされる計画としている。

